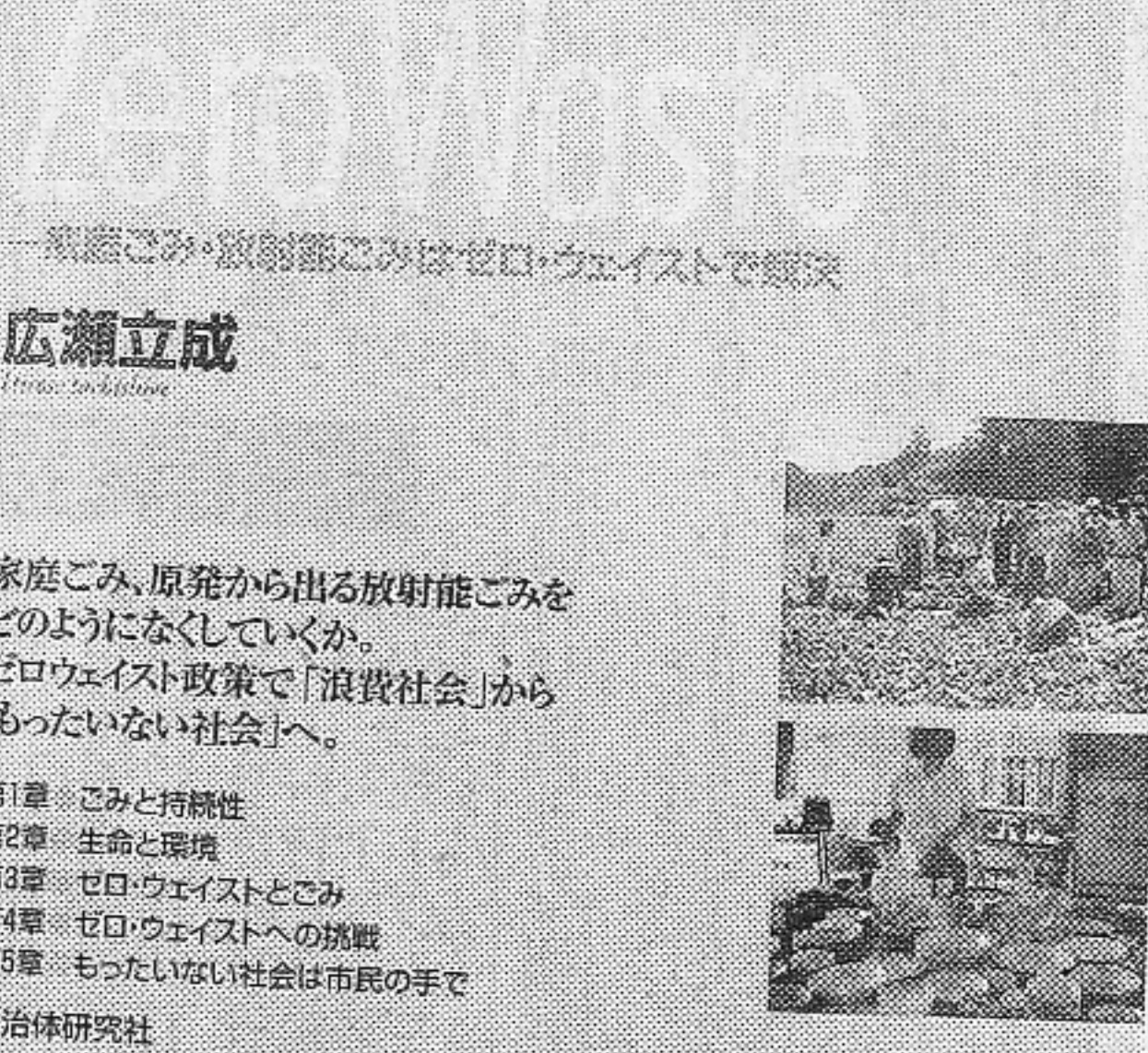


ごみゼロ取り組み集大成

物理学者でNPO理事長 広瀬さんが出版

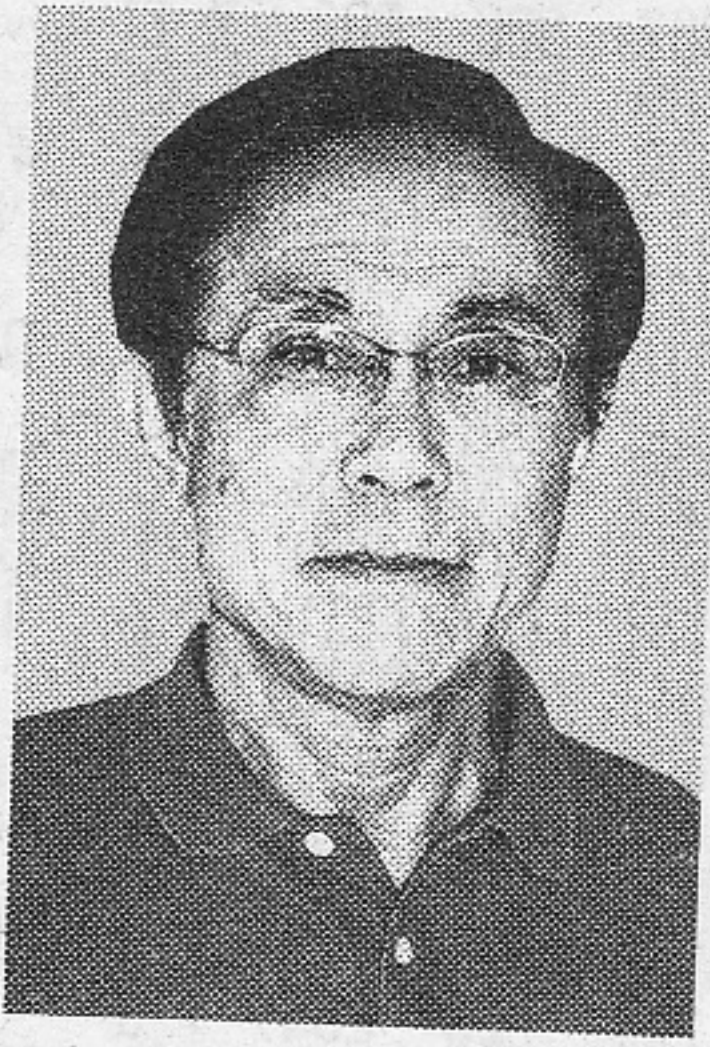
都立大名誉教授でNPO法人「町田発・ゼロ・ウェイストの会」理事長を務める広瀬立成さん(73)(町田市下小山田町)が、「物理学者はごみをこう見る 家庭ごみ・放射能ごみはゼロ・ウェイストで解決」(自治体研究社)『写真』を出版した。

物理学者はごみをこう見る



放射性廃棄物問題も解説

広瀬さんは10年来、町田でごみ問題に取り組んできた。物理学の「物質不滅の法則」によれば、ごみ



広瀬さん

は燃やせば二酸化炭素などのガスが発生し焼却灰も残り、しかもその総重量は変わらないという。その上で「ごみは燃やしても消えてなくなることはない」と強調、「ごみになるものを作らない、ごみを燃やさない、埋め立てない」

を持論として訴え続けている。

本では長年の活動に基づき、大量消費社会を脱し、欧米発祥の「ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)」「社会へかじを切るよう提言。日本ではごみ処理に年間約2兆円の税金をかけており、それは空気、水、土壌を汚染するだけで、根本解決にはつながらない」と指摘する。

本
よみたま店

書・柿 莫山

◆よみたま店

また「町田発・ゼロ・ウェイストの会」が音頭をとって町田で展開した実践例を紹介。団地に大型生ごみ処理機を置いて堆肥化し、地域で野菜や米を作る運動、生ごみ堆肥を耕作放棄された水田に投入する「田んぼ再生プロジェクト」――などだ。

さらに福島第一原発の事故に関連し、高レベル放射性廃棄物の問題についても、ごみ問題の一環としてわかりやすく解説している。

広瀬さんは「ごみ問題に取り組んできた集大成として、この本を出版した。市民がごみゼロ社会に一步を